

## 2. 環境問題への関心(問2)

### 2-1 関心ある環境問題分野

関心の高い環境問題は、「地球温暖化」「オゾン層の破壊」「世界的な森林の減少」「大気汚染」「不法投棄など廃棄物の不適切な処理」「海洋汚染」等である。一方、「黄砂」「地盤沈下」「悪臭」に対しては関心が低い。

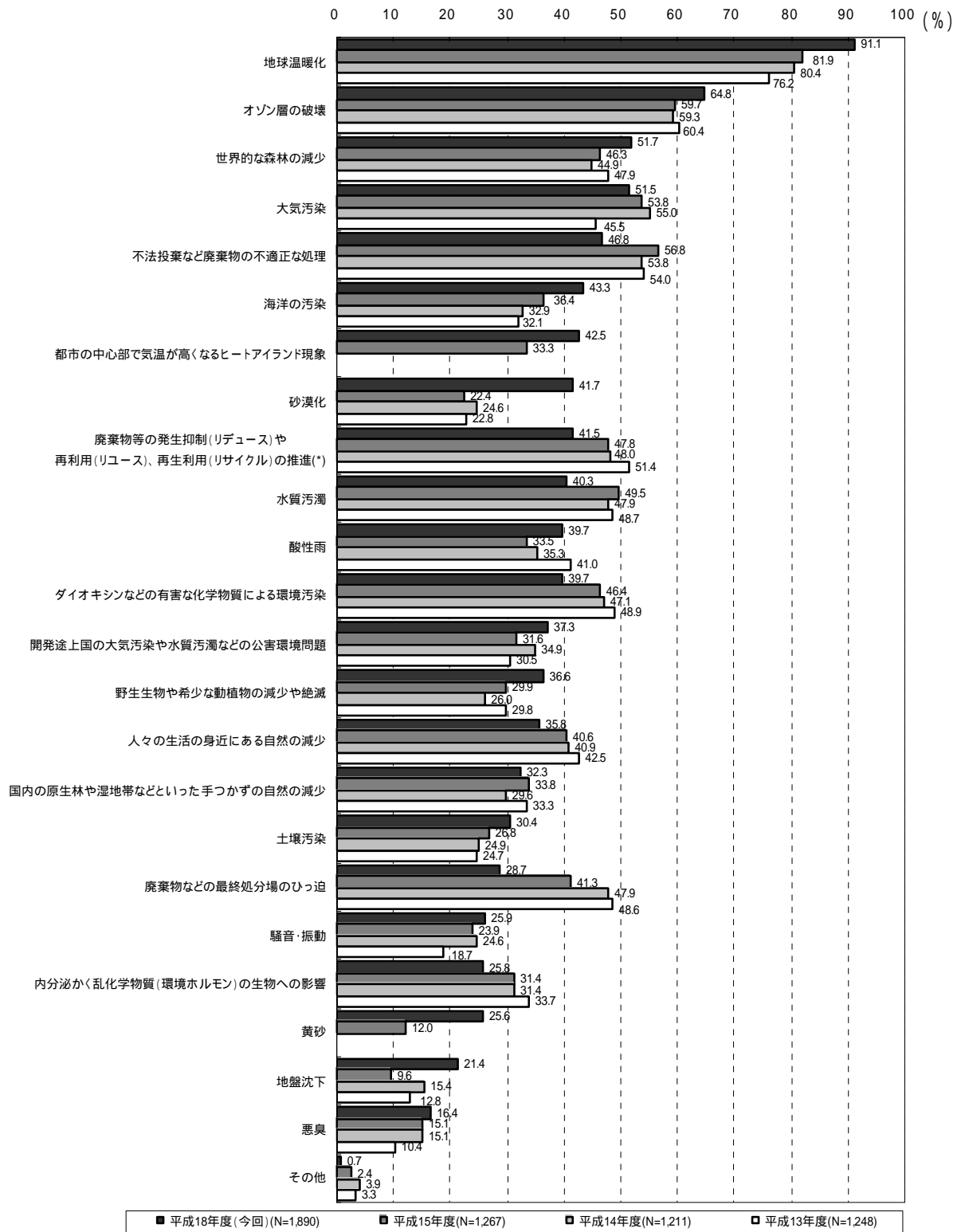
前回との比較では「砂漠化」「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象」に対する関心が大きく上昇している。

環境問題への関心の有無を尋ねたところ、最も関心の高い項目は「地球温暖化」(91%)、次いで「オゾン層の破壊」(65%)、であり、これらはいずれも地球規模での環境問題である。さらに過半数の人が関心を示した項目は、「世界的な森林の減少」(52%)「大気汚染」(52%)である。また、多くの人に関心を示した項目は、「不法投棄など廃棄物の不適切な処理」(47%)、「海洋の汚染」(43%)、「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象」(43%)である。

一方、関心が低い項目は、「黄砂」(26%)、「地盤沈下」(21%)、「悪臭」(16%)である。

前回調査と比較すると、「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象」(43%)と「砂漠化」(42%)などで関心が大きく高まっている。

図表 2-1 関心のある環境問題分野(全体、時系列:複数回答)



注) \*印のものは、前回の調査と質問が異なる。

関心がある環境問題について、男性の方が女性よりも関心を持つ比率が高い項目は、「不法投棄など廃棄物の不適正な処理」と「酸性雨」である。その他の項目においては、女性の方が男性よりも高い関心を持つ。

関心を持つ比率が全体よりも高い項目(10ポイント以上)を年齢別にみた結果を以下に示す。

- 60代 「黄砂」
- 70代以上 「不法投棄など廃棄物の不適正な処理」  
「開発途上国の大気汚染や水質汚濁などの公害環境問題」  
「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象」

関心を持つ比率が全体よりも高い項目(15ポイント以上)を職業別にみた結果を以下に示す。

- 農林漁業 「酸性雨」  
「廃棄物など最終処分場のひっ迫」
- 自由業 「廃棄物等の発生抑制(リデュース)や再利用(リユース)、再生利用(リサイクル)の推進」
- 学生 「大気汚染」  
「騒音・振動」
- その他 「内分泌かく乱物質(環境ホルモン)の生物への影響」  
「国内の原生林や湿地帯などといった手つかずの自然の減少」  
「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象」

職業別には、農林漁業、自由業、学生において環境問題への関心が高いことが伺える。

図表 2-2 環境問題の関心(性別、年齢別、職業別:複数回答)

単位: %

	性別			年代別						職業別												
	全体	男性	女性	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	農林漁業	商工販売サービス	自由業	会社役員・会社経営	会社員	公務員	団体職員	学生	パート・アルバイト	専業主婦	無職	その他	
調査数(N)	1,890	1,080	810	345	612	350	283	166	134	20	89	57	36	740	79	30	66	162	360	191	60	
地球温暖化	91.1	89.3	93.6	87.5	89.7	92.3	92.6	95.2	95.5	95.0	96.6	91.2	72.2	89.2	92.4	86.7	93.9	90.1	95.6	91.6	88.3	
オゾン層の破壊	64.8	64.4	65.4	59.1	63.9	72.0	63.6	65.1	67.2	70.0	73.0	70.2	61.1	63.0	57.0	70.0	75.8	59.3	68.1	63.9	65.0	
酸性雨	39.7	40.5	38.6	33.0	38.1	44.3	41.0	41.0	47.8	55.0	46.1	52.6	41.7	37.4	36.7	33.3	45.5	32.7	40.6	41.9	46.7	
黄砂	25.6	25.7	25.4	20.0	23.7	26.6	24.7	36.7	34.3	30.0	38.2	33.3	33.3	23.4	15.2	30.0	18.2	20.4	26.4	33.0	26.7	
大気汚染	51.5	47.9	56.3	56.2	54.4	40.6	48.8	53.6	57.5	65.0	55.1	42.1	41.7	47.2	49.4	46.7	68.2	52.5	55.0	54.5	63.3	
騒音・振動	25.9	24.1	28.4	30.1	26.0	21.4	24.4	25.9	29.9	25.0	30.3	26.3	16.7	24.3	20.3	13.3	42.4	23.5	27.8	29.3	25.0	
悪臭	16.4	13.2	20.6	18.8	17.2	16.0	12.7	16.9	14.9	25.0	14.6	17.5	13.9	14.9	13.9	10.0	16.7	18.5	18.9	16.2	21.7	
水質汚濁	40.3	36.8	45.1	38.8	40.0	39.4	40.3	41.0	47.0	40.0	46.1	40.4	44.4	36.1	36.7	33.3	40.9	38.3	46.4	44.0	46.7	
土壌汚染	30.4	28.1	33.6	26.1	28.8	33.7	30.0	36.1	34.3	35.0	30.3	31.6	33.3	26.2	22.8	30.0	34.8	27.8	35.0	37.2	41.7	
地盤沈下	21.4	16.4	28.0	22.0	21.2	19.4	22.3	22.9	21.6	5.0	18.0	17.5	19.4	17.8	16.5	23.3	22.7	22.8	28.3	23.0	33.3	
海洋の汚染	43.3	42.6	44.2	36.8	43.0	47.7	43.5	42.2	50.7	45.0	55.1	57.9	36.1	40.3	49.4	36.7	43.9	37.0	44.2	46.1	50.0	
廃棄物等の発生抑制(リデュース)や再利用(リユース)、再生利用(リサイクル)の推進	41.5	36.6	48.0	38.8	43.6	42.6	38.5	39.8	44.0	35.0	44.9	57.9	33.3	35.9	35.4	40.0	42.4	37.7	50.8	42.9	53.3	
不法投棄など廃棄物の不適正な処理	46.8	47.3	46.0	34.5	45.6	49.1	53.4	51.8	57.5	60.0	58.4	49.1	41.7	44.2	43.0	33.3	34.8	42.0	48.9	53.4	61.7	
廃棄物などの最終処分場のひっ迫	28.7	27.4	30.5	19.7	28.9	28.9	31.1	36.1	36.6	45.0	36.0	36.8	27.8	24.5	21.5	20.0	27.3	27.2	33.3	31.4	41.7	
ダイオキシンなどの有害な化学物質による環境汚染	39.7	35.3	45.6	33.6	41.3	45.4	33.2	41.0	44.8	45.0	46.1	54.4	38.9	32.7	30.4	43.3	42.4	37.7	50.8	39.3	48.3	
内分泌かく乱化学物質(環境ホルモン)の生物への影響	25.8	22.5	30.2	20.9	27.9	29.1	22.6	22.9	30.6	35.0	31.5	33.3	22.2	19.6	20.3	13.3	27.3	21.6	35.6	28.8	41.7	
国内の原生林や湿地帯などといった手つかずの自然の減少	32.3	29.7	35.8	24.1	33.7	34.6	30.4	36.1	41.0	35.0	39.3	38.6	25.0	26.8	29.1	23.3	36.4	32.1	37.5	36.1	50.0	
人々の生活の身近にある自然の減少	35.8	31.6	41.5	34.2	38.1	34.3	29.3	39.8	42.5	25.0	38.2	43.9	33.3	31.1	21.5	40.0	37.9	40.1	41.7	38.2	48.3	
野生生物や希少な動植物の減少や絶滅	36.6	33.6	40.5	33.6	38.6	41.1	29.3	32.5	43.3	25.0	37.1	45.6	38.9	33.0	38.0	43.3	33.3	35.2	37.8	42.9	48.3	
世界的な森林の減少	51.7	50.5	53.3	46.4	51.0	50.0	54.8	56.6	60.4	45.0	59.6	61.4	38.9	48.6	45.6	50.0	54.5	44.4	55.0	59.7	58.3	
砂漠化	41.7	40.6	43.1	38.3	42.2	42.0	39.9	42.8	50.0	45.0	46.1	43.9	47.2	39.2	38.0	40.0	45.5	37.0	41.4	50.3	48.3	
開発途上国の大気汚染や水質汚濁などの公害環境問題	37.3	36.8	38.0	27.8	36.4	38.3	39.9	44.0	49.3	50.0	53.9	49.1	33.3	33.1	26.6	30.0	28.8	34.0	38.9	46.6	48.3	
都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象	42.5	36.6	50.4	38.0	41.5	42.9	41.3	47.6	53.7	50.0	44.9	43.9	41.7	35.3	35.4	36.7	43.9	40.7	54.7	45.0	58.3	
その他	0.7	0.8	0.5	0.3	0.5	0.9	0.4	0.6	3.0	0.0	1.1	3.5	2.8	0.1	0.0	0.0	0.0	0.6	0.0	2.6	3.3	

地域別では、関心を持つ比率が全体より高い項目(5ポイント)は、北海道・東北の「世界的な森林の減少」、関東の「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象」、中国・四国の「大気汚染」、北陸、近畿の「黄砂」である。また、北陸、九州は全地域の中で関心を持つ比率が全体を下回る項目が多いが、関東、中部、近畿は、上回る項目が多い。

都市規模別では、関心を持つ比率が全体より高い項目(5ポイント)は、政令指定都市の「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象」の1つの項目である。また、「地球温暖化」「黄砂」「地盤沈下」「廃棄物等の発生抑制(リデュース)や再利用(リユース)、再生利用(リサイクル)の推進」「世界的な森林の減少」「都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象」の5項目は、都市規模が大きいほど関心が高くなっている。

図表 2-3 環境問題の関心(地域別、都市規模別:複数回答)

単位: %

	全体	地域別							都市規模別			
		北海道・東北	関東	北陸	中部	近畿	中国・四国	九州	政令指定都市	10万人以上	10万人未満	町村
調査数(N)	1,890	198	618	78	241	392	151	212	443	762	381	301
地球温暖化	91.1	90.9	90.5	87.2	93.8	92.3	92.7	88.2	93.2	92.7	88.7	87.0
オゾン層の破壊	64.8	63.6	64.1	62.8	66.4	63.3	66.9	68.4	65.0	66.3	64.0	61.5
酸性雨	39.7	39.4	39.8	38.5	37.8	42.1	41.1	36.8	42.4	42.7	33.9	35.5
黄砂	25.6	25.3	18.6	30.8	29.0	35.5	24.5	23.1	26.9	26.0	25.5	22.9
大気汚染	51.5	44.9	54.0	43.6	48.1	52.6	57.6	50.5	53.3	54.1	45.1	50.2
騒音・振動	25.9	27.8	28.6	14.1	30.3	25.5	19.2	21.2	30.0	28.5	19.9	20.9
悪臭	16.4	17.2	17.6	12.8	17.8	16.3	15.2	12.7	17.6	16.5	15.2	15.9
水質汚濁	40.3	43.4	40.3	32.1	42.7	39.3	38.4	41.0	39.1	42.4	37.0	40.9
土壌汚染	30.4	30.3	32.2	25.6	32.0	28.8	28.5	29.7	32.3	32.5	26.5	27.2
地盤沈下	21.4	23.2	23.9	15.4	22.4	18.1	19.9	20.3	24.2	22.3	18.9	18.3
海洋の汚染	43.3	41.4	44.3	48.7	42.7	43.1	41.7	42.0	47.4	44.0	39.4	40.2
廃棄物等の発生抑制(リデュース)や再利用(リユース)、再生利用(リサイクル)の推進	41.5	47.5	42.1	38.5	39.4	39.5	41.7	41.0	43.1	42.9	39.9	37.2
不法投棄など廃棄物の不適正な処理	46.8	45.5	47.6	47.4	48.5	47.4	40.4	46.7	47.2	47.6	47.2	43.2
廃棄物などの最終処分場のひっ迫	28.7	30.3	28.6	32.1	28.2	30.1	25.2	26.9	29.8	30.8	26.2	24.6
ダイオキシンなどの有害な化学物質による環境汚染	39.7	39.4	38.3	38.5	38.6	41.3	39.7	42.5	39.7	42.0	37.5	36.2
内分泌かく乱化学物質(環境ホルモン)の生物への影響	25.8	21.7	24.3	28.2	25.3	28.3	23.8	30.7	29.1	26.5	22.0	23.6
国内の原生林や湿地帯などといった手つかずの自然の減少	32.3	35.4	33.2	23.1	25.3	36.0	33.8	30.7	34.8	34.4	28.1	28.9
人々の生活の身近にある自然の減少	35.8	37.4	37.9	34.6	31.1	36.7	35.1	33.0	36.8	38.8	32.5	30.6
野生生物や希少な動植物の減少や絶滅	36.6	36.9	37.7	35.9	36.1	36.7	35.1	34.4	39.1	38.5	32.3	33.9
世界的な森林の減少	51.7	59.6	49.5	48.7	51.9	53.8	48.3	50.0	56.0	52.4	48.3	47.8
砂漠化	41.7	36.9	40.9	43.6	42.3	44.4	35.8	46.2	41.5	43.4	38.3	41.2
開発途上国の大気汚染や水質汚濁などの公害環境問題	37.3	38.4	39.6	32.1	33.6	38.5	33.1	36.3	39.5	40.4	31.8	32.9
都市の中心部で気温が高くなるヒートアイランド現象	42.5	40.9	48.9	30.8	42.3	44.1	34.4	32.5	49.4	45.3	36.5	32.2
その他	0.7	1.0	0.6	0.0	1.2	0.5	1.3	0.0	0.9	0.9	0.0	0.7

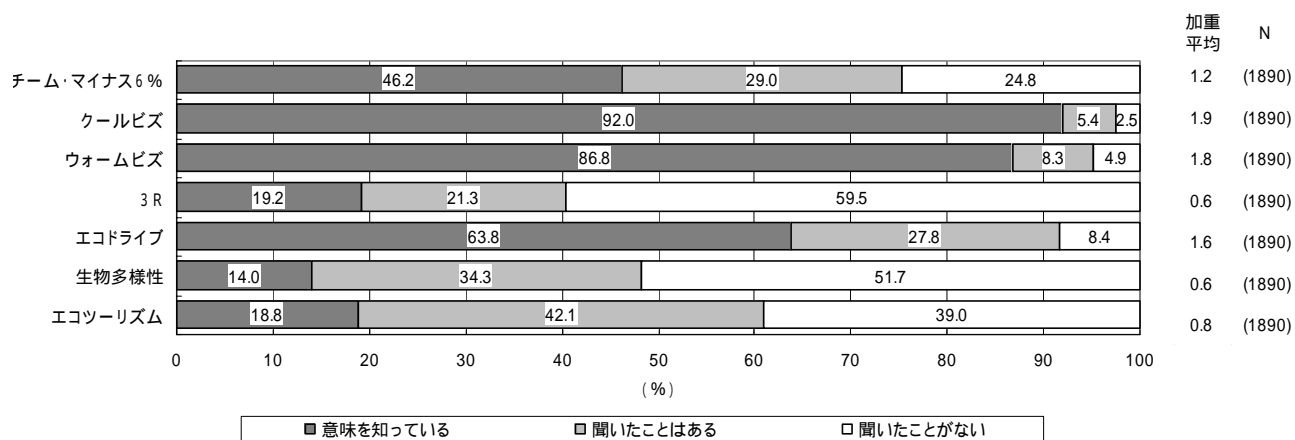
## 2-2 用語の認知

環境問題関連の言葉については、「クールビズ」「ウォームビズ」は「意味を知っている」とする比率が9割前後ある。「エコドライブ」は「聞いたことがある」を含めた認知度が9割を超える。

一方、「3R」については、認知度が最も低く、「生物多様性」「エコツーリズム」を下回る。

用語の認知では、「意味を知っている」と答えた人の比率は「クールビズ」が92%、「ウォームビズ」が87%と高い。一方、同比率は「3R」が19%、「生物多様性」が14%、「エコツーリズム」が19%と低い。「聞いたことがない」と答えた人の比率は「3R」が60%、「生物多様性」が52%と高い。

図表 2-4 用語の認知(全体)



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に2点、「聞いたことはある」に1点を与えて算出した。

## 2-2-1 チーム・マイナス6%

性別では、男性の方が女性より認知度（「意味を知っている」と「聞いたことはある」の合計）が高い。

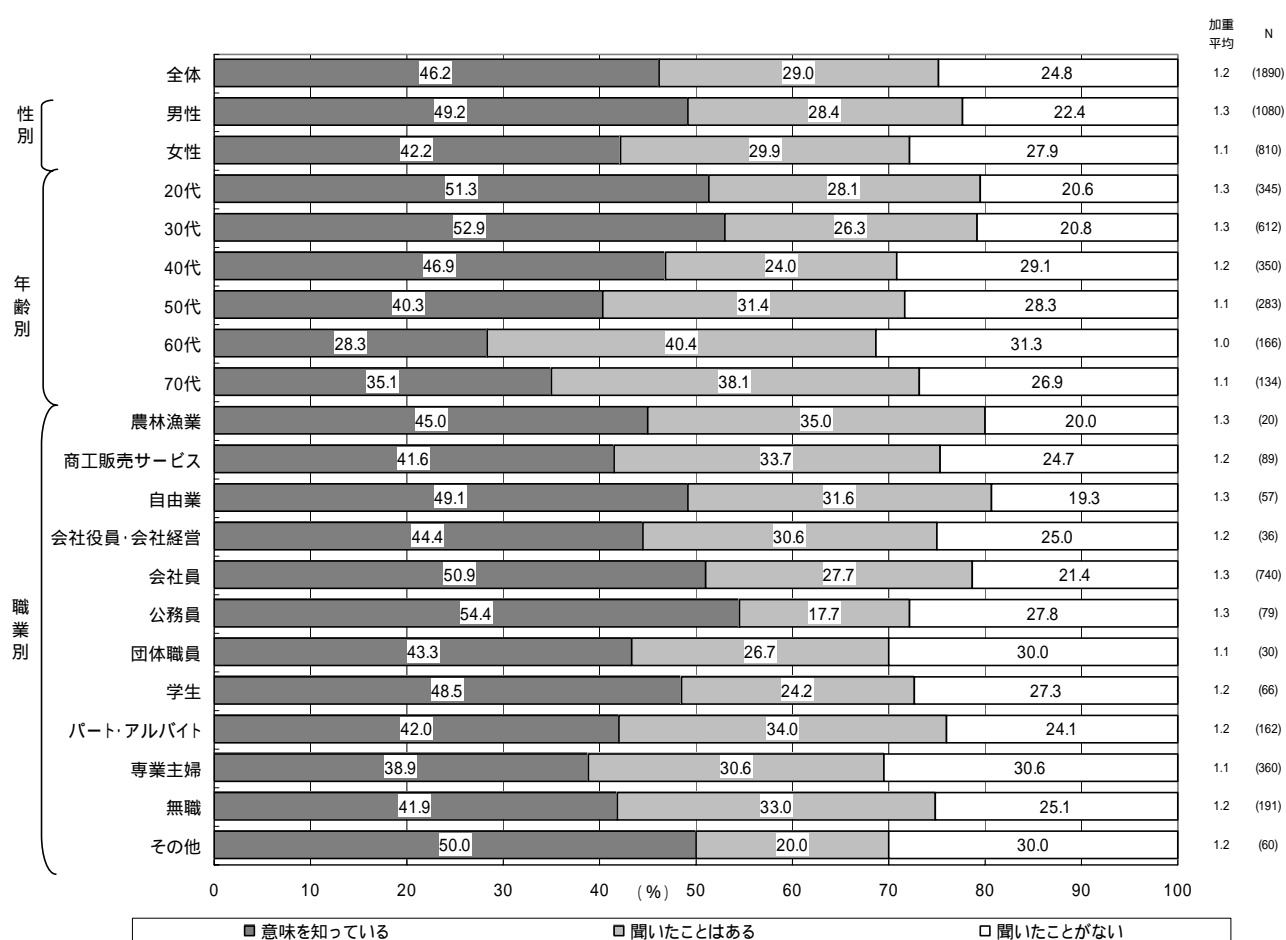
年齢別では、70代以上の除き「意味を知っている」と答える人の比率は、年連が若いほど高いという傾向がみられる。

職業別では、公務員、会社員その他で「意味を知っている」と答える人の比率が高くなっている（54%、51%、50%）。

地域別では、関東において「意味を知っている」と答える人の比率が最も高い（51%）。一方で、近畿では、「意味を知っている」と答える人の比率が最も低い（40%）。

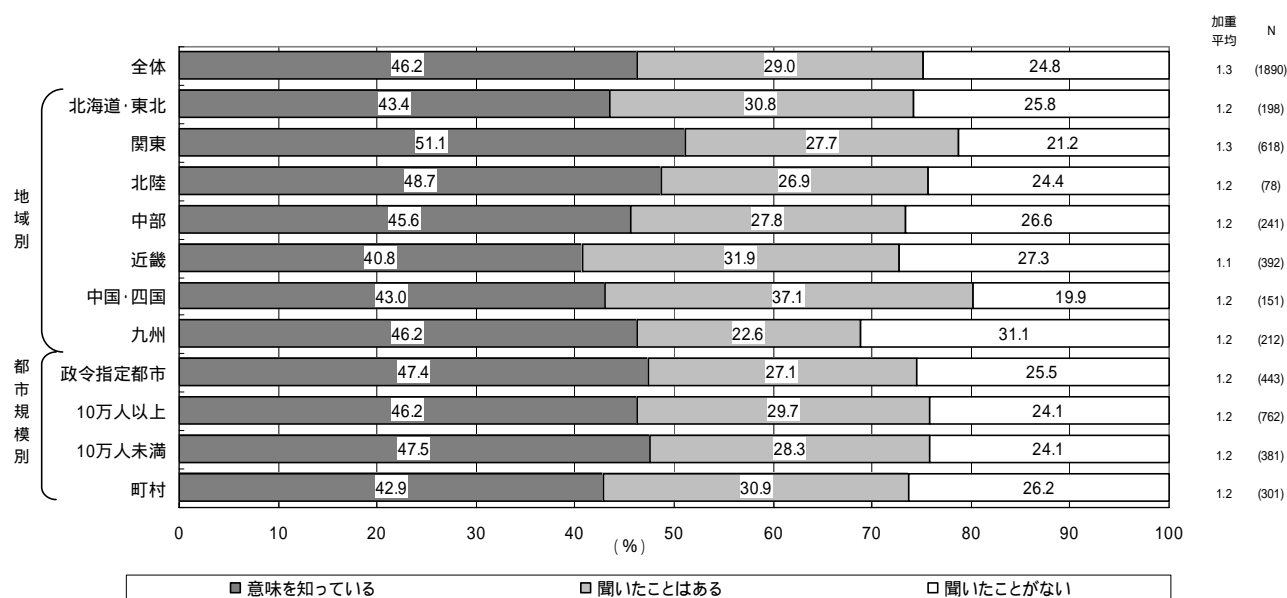
都市規模別では、差は見られなかった。

図表 2-5 用語の認知（チーム・マイナス6%、（性別、年齢別、職業別））



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に2点、「聞いたことはある」に1点を与えて算出した。

図表 2-6 用語の認知(チーム・マイナス 6%、(地域別、都市規模別))



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に2点、「聞いたことはある」に1点を与えて算出した。

### 2-2-2 クールビズ

性別では、差は見られなかった。

年齢別では、40代で、「意味を知っている」と答えた人の比率が最も高く(94%)、60代、70代はやや低くなっている。

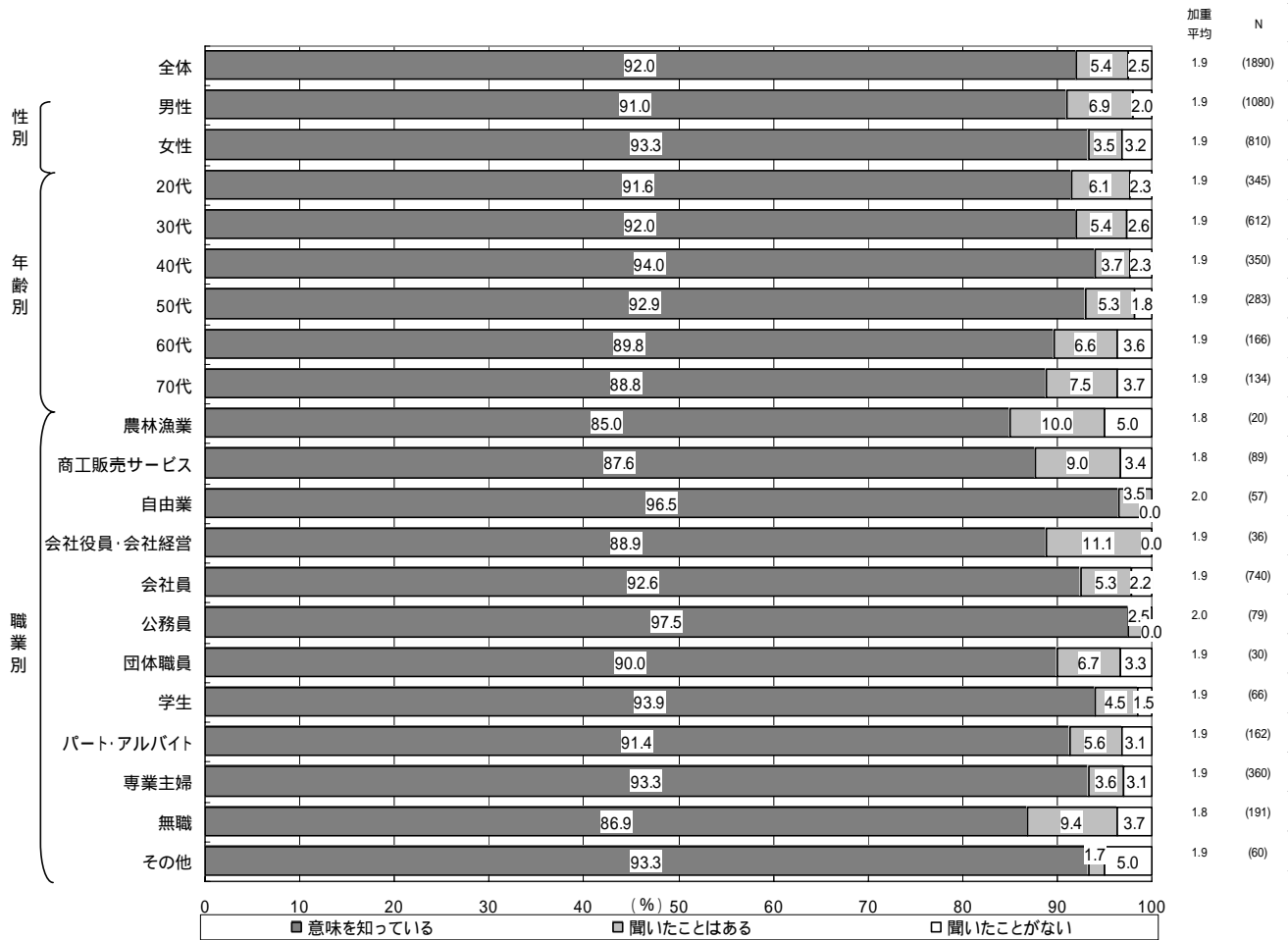
職業別では、自由業、公務員で「意味を知っている」と答えた人の比率が高く、それぞれ97%、98%となっている。

地域別では、おおきな差は見られない。

都市規模別では、政令指定都市で「意味を知っている」と答えた人の比率が最も高く(95%)、一方、町村で最も低くなっている(88%)。

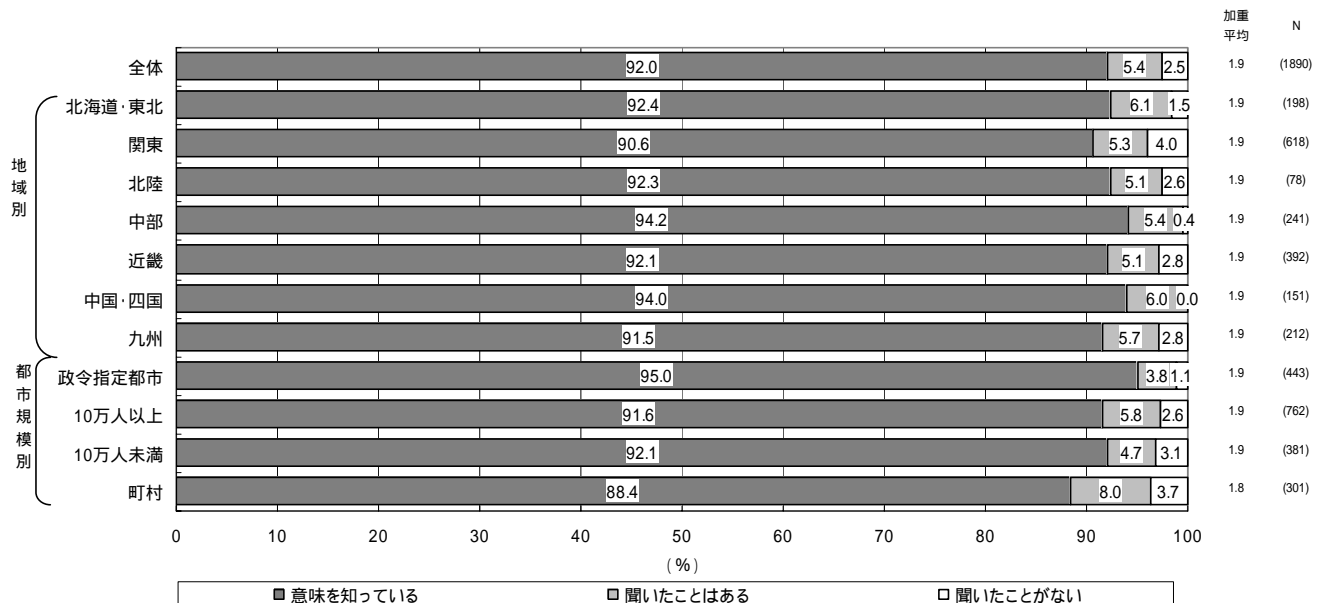


図表 2-7 用語の認知(クールビズ、(性別、年齢別、職業別))



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に2点、「聞いたことはある」に1点を与えて算出した。

図表 2-8 用語の認知(クールビズ、(地域別、都市規模別))



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に2点、「聞いたことはある」に1点を与えて算出した。

### 2-2-3 ウォームビズ

性別では、大きな差は見られなかった。

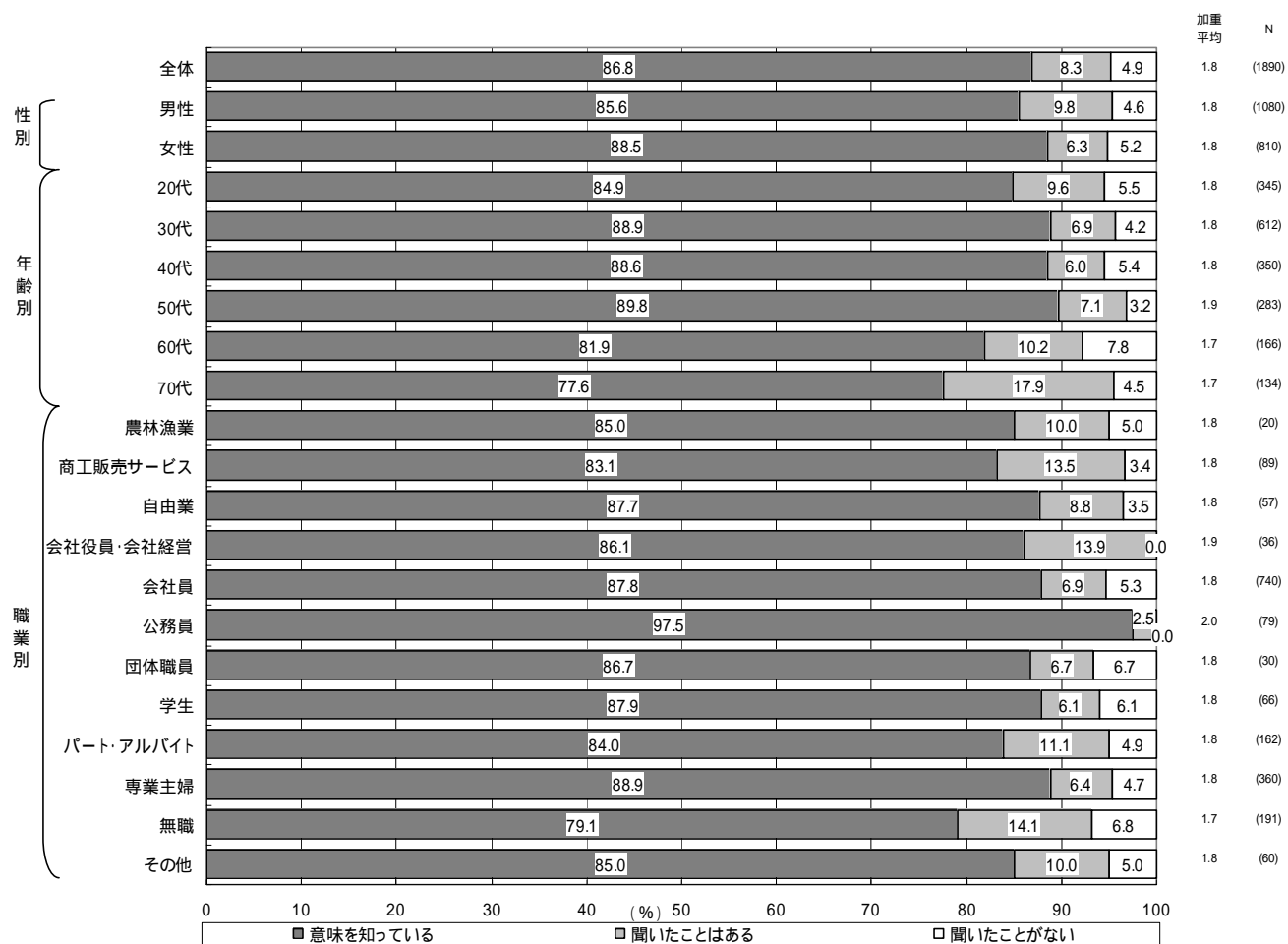
年齢別では、60代で「聞いたことがない」と答えた人の比率が最も高く(8%)、一方、50代で最も低くなっている(3%)。

職業別では、公務員で「意味を知っている」と答えた人の比率が最も高く(98%)、一方、無職で最も低くなっている(79%)。

地域別では、中国・四国で「意味を知っている」と答えた人の比率が最も高く(91%)、北海道・東北で最も低くなっている(84%)。

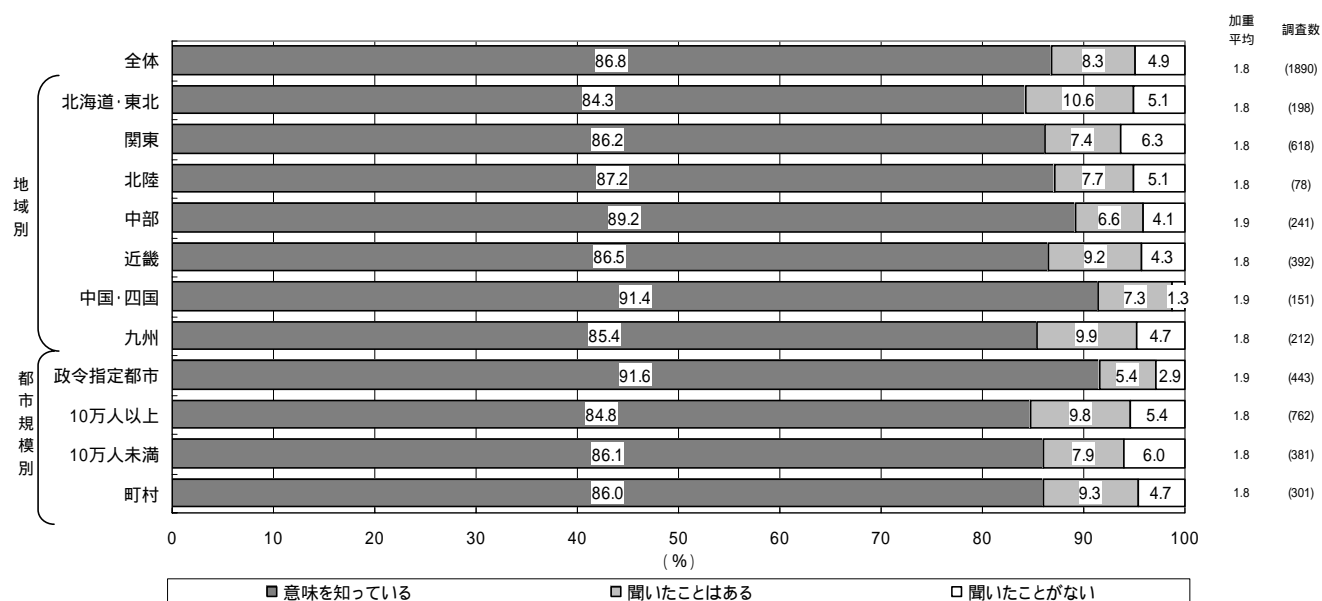
都市規模別では、政令指定都市において「意味を知っている」と答えた人の比率が最も高く(92%)、10万人以上の都市で最も低くなっている(85%)。

図表 2-9 用語の認知(ウォームビズ、(性別、年齢別、職業別))



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に2点、「聞いたことはある」に1点を与えて算出した。

図表 2-10 用語の認知(ウォームビズ、(地域別、都市規模別))



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に2点、「聞いたことはある」に1点を与えて算出した。

#### 2-2-4 3R

性別では、男性の方が「意味を知っている」「聞いたことがある」で女性を上回る。

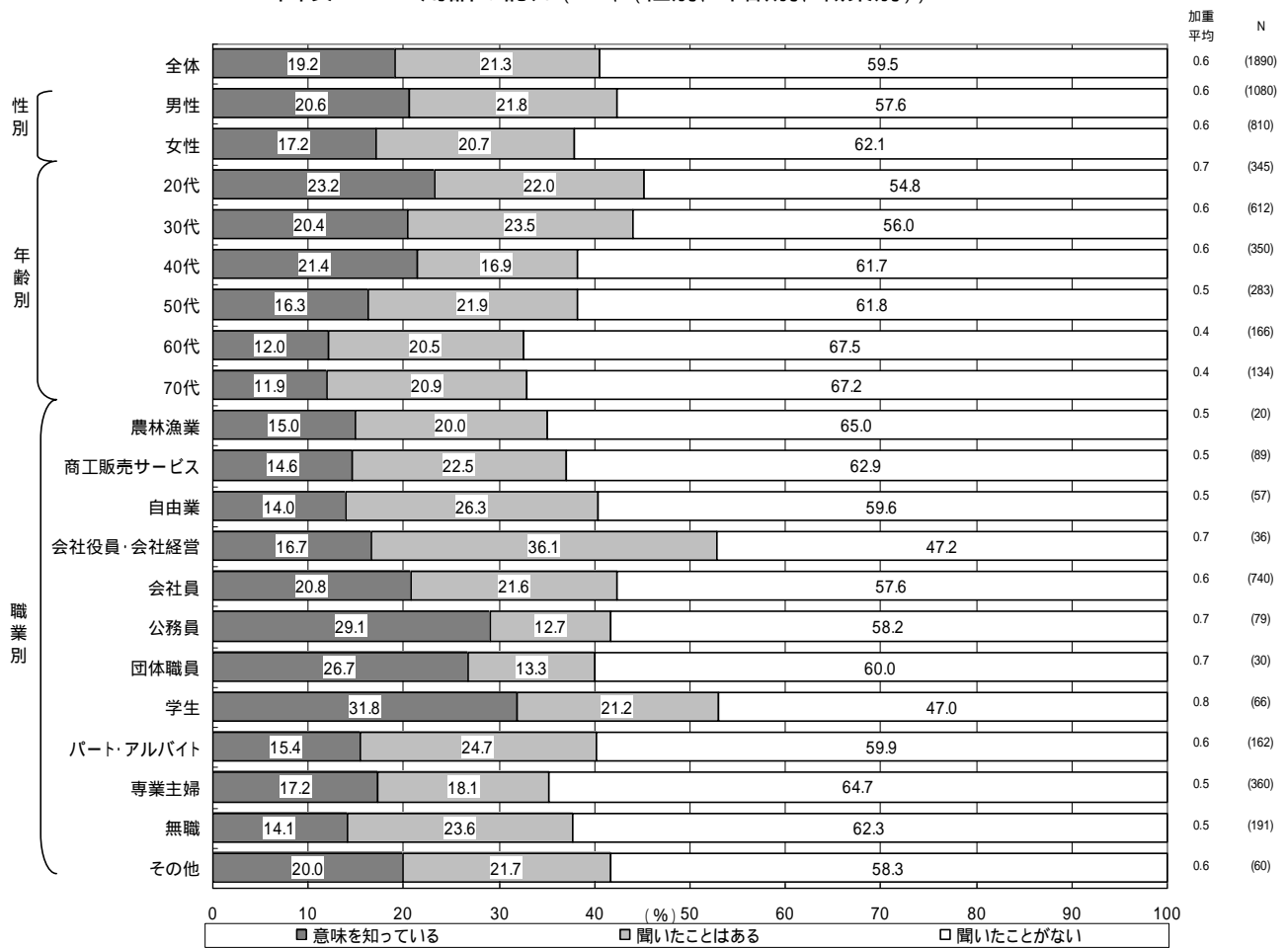
年齢別では、20代、40代で「意味を知っている」と答えた人の比率が高く(23%、22%)、一方で、60代(12%)、70代(12%)で低くなっている。

職業別では、学生、公務員で「意味を知っている」と答えた人の比率が高く(32%、29%)、一方で、自由業、無職において低くなっている(各14%)。

地域別では、中国・四国、九州で「意味を知っている」と答えた人の比率が高く(27%、28%)、一方で近畿では最も低くなっている(14%)。

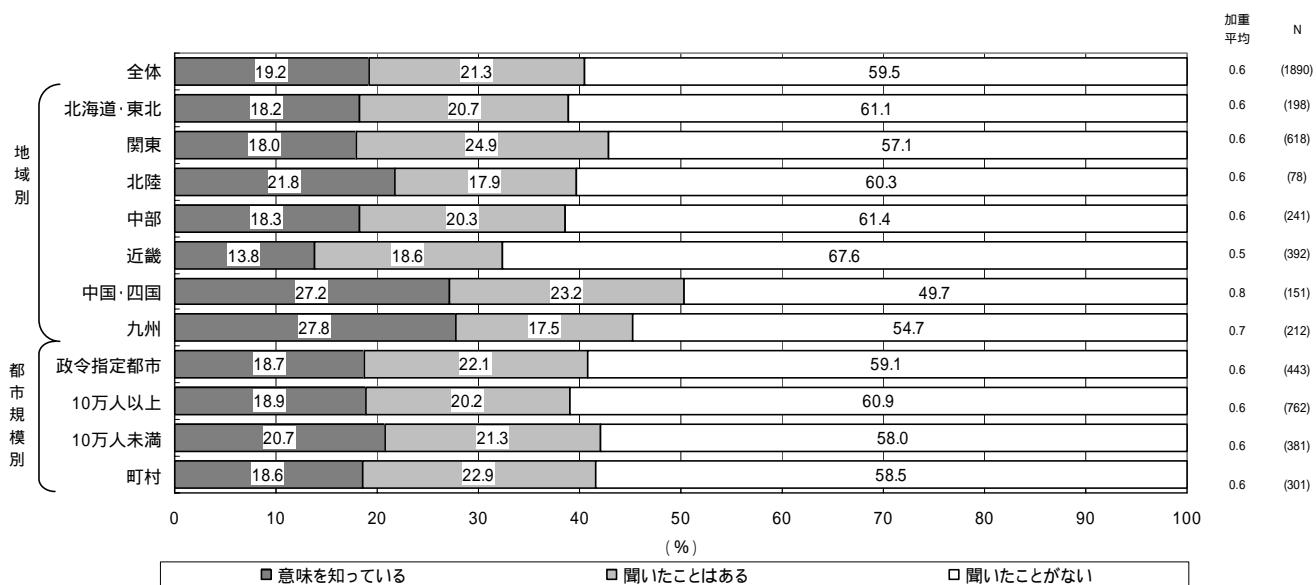
都市規模別では、大きな差は見られなかった。

図表 2-11 用語の認知(3R、(性別、年齢別、職業別))



注) この項の加重平均は、「意味を知っている」に 2 点、「聞いたことはある」に 1 点を与えて算出した。

図表 2-12 用語の認知(3R、(地域別、都市規模別))



注) この項の加重平均は、「意味を知っている」に 2 点、「聞いたことはある」に 1 点を与えて算出した。

## 2-2-5 エコドライブ

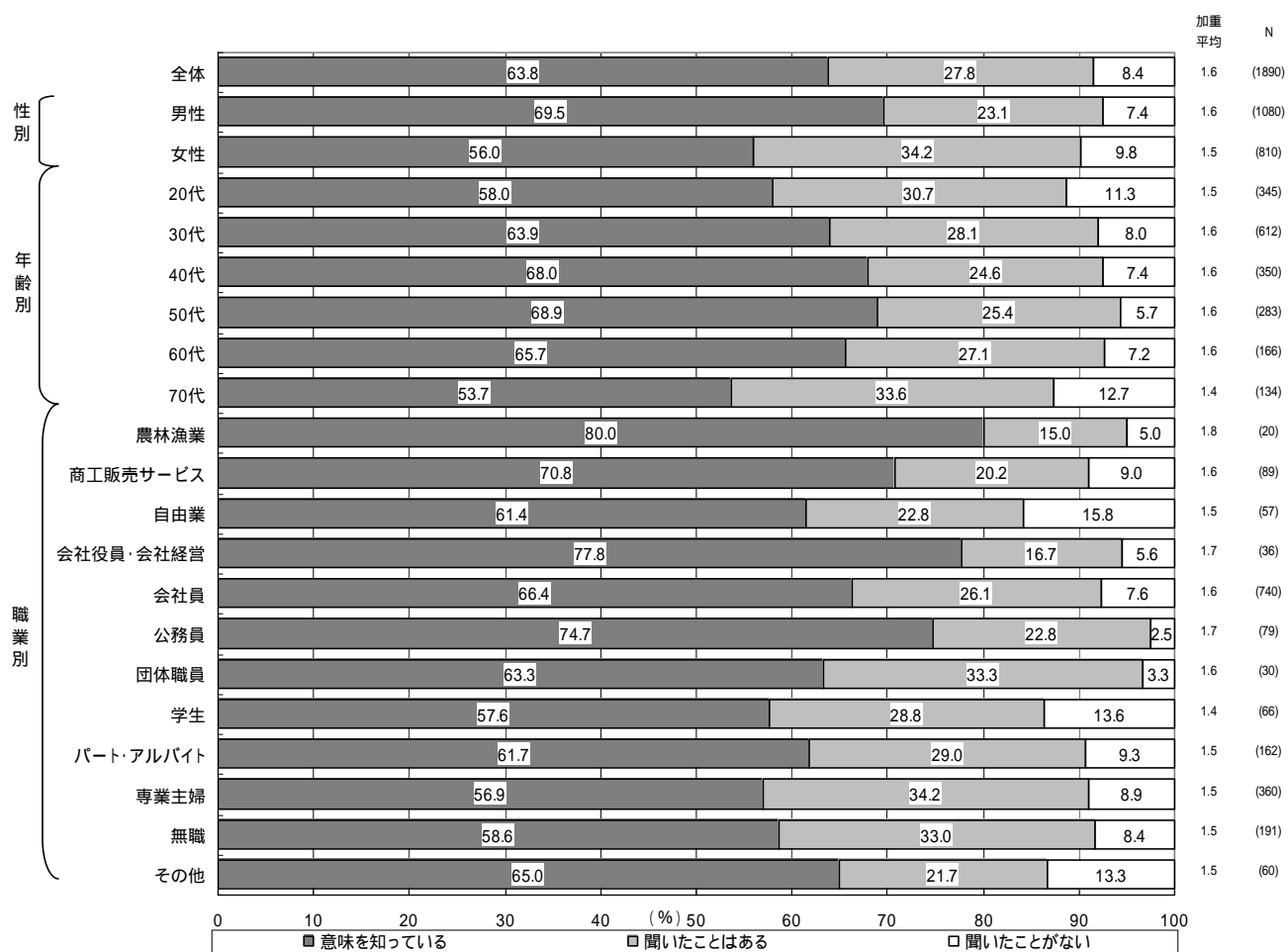
性別では、男性の方が「意味を知っている」と答えた人の比率が女性より 10 ポイント以上高くなっている。

年齢別では、40 代、50 代、60 代で「意味を知っている」と答えた人の比率が高く(68%、69%、66%)、一方 70 代で最も低くなっている(54%)。

職業別では、農林漁業、会社役員・会社経営で「意味を知っている」と答えた人の比率が高く(80%、78%)、一方、学生、専業主婦で低くなっている(58%、57%)。

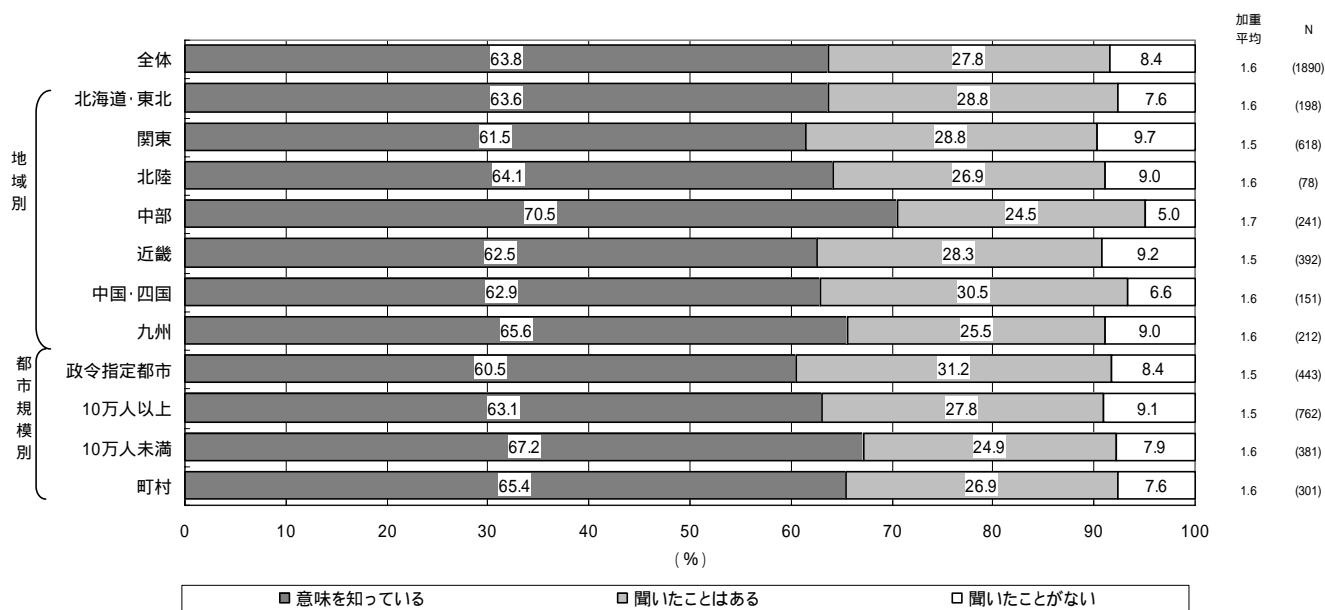
地域別では、中部で「意味を知っている」と答えた人の比率が最も高く(71%)、また、「聞いたことがない」と答えた人の比率が最も低く 5%となっている。一方で関東で「意味を知っている」と答えた人の比率が最も低くなっている(62%)。

図表 2-13 用語の認知(エコドライブ、(性別、年齢別、職業別))



注) この項の加重平均は、「意味を知っている」に 2 点、「聞いたことはある」に 1 点を与えて算出した。

図表 2-14 用語の認知(エコドライブ、(地域別、都市規模別))



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に2点、「聞いたことはある」に1点を与えて算出した。

## 2-2-6 生物多様性

性別では、男性の方が「意味を知っている」と答えた人の比率が女性よりも高くなっている。

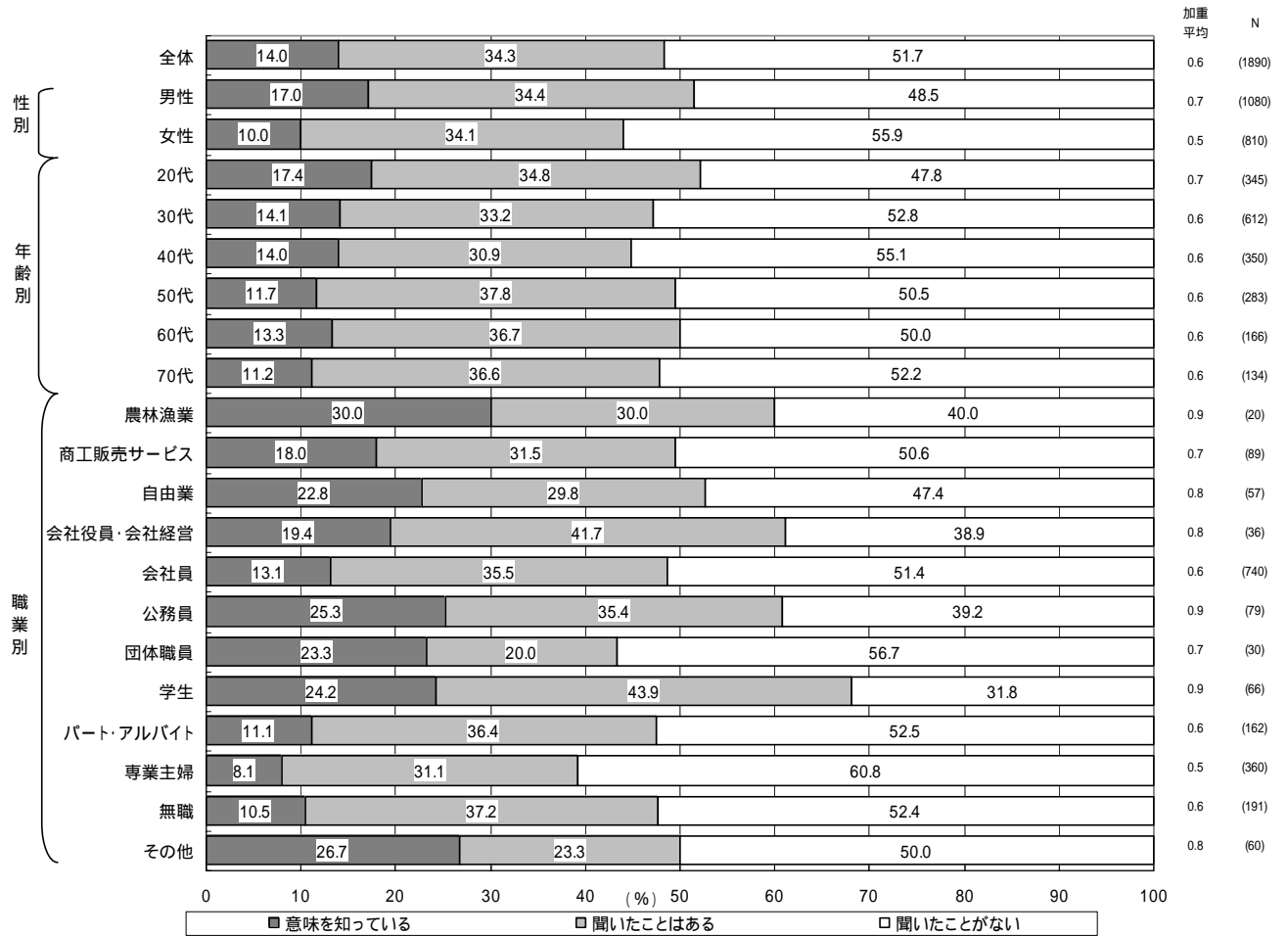
年齢別では、20代において「意味を知っている」と答えた人の比率が最も高く(17%)、70代において最も低くなっている(11%)。

職業別では、農林漁業、その他において「意味を知っている」と答えた人の比率が高く(30%、27%)、一方で、専業主婦で最も低くなっている(8%)。

地域別では、関東において「意味を知っている」と答えた人の比率が高く(16%)、北陸で最も低くなっている(9%)。また、近畿において「聞いたことがない」と答えた人の比率が最も高くなっている(55%)。

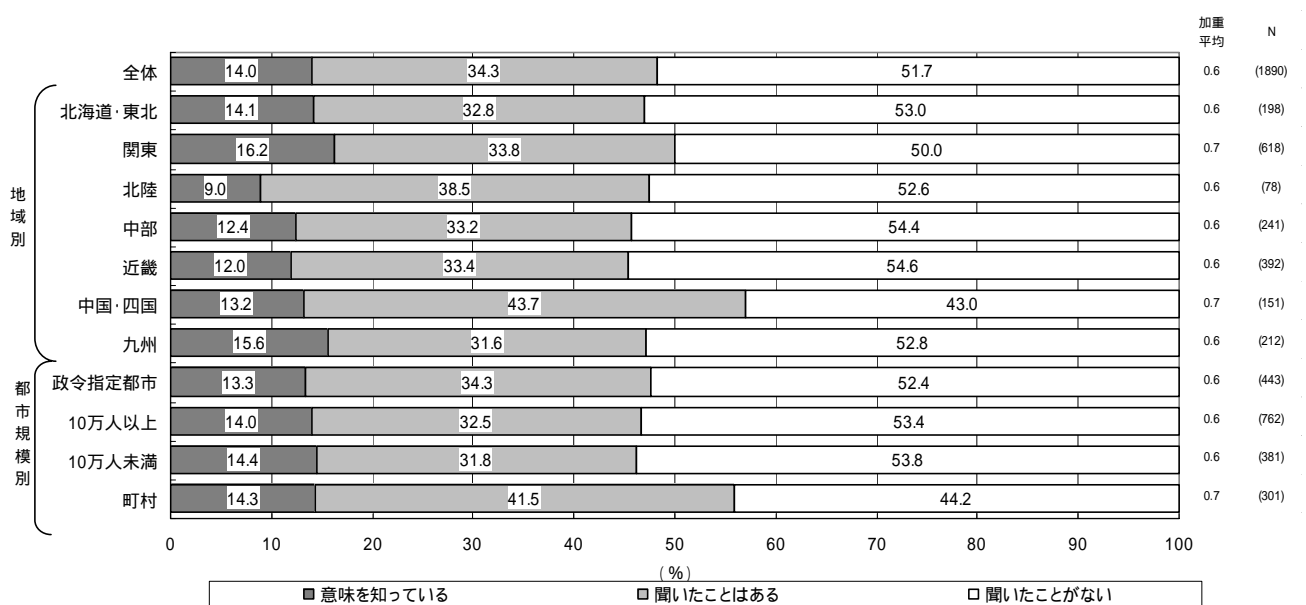
都市規模別では、町村において「聞いたことがない」と答えた人の比率が最も低くなっている。

図表 2-15 用語の認知(生物多様性、(性別、年齢別、職業別))



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に2点、「聞いたことはある」に1点を与えて算出した。

図表 2-16 用語の認知(生物多様性、(地域別、都市規模別))



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に2点、「聞いたことはある」に1点を与えて算出した。

## 2-2-7 エコツーリズム

性別では、大きな差は見られない。

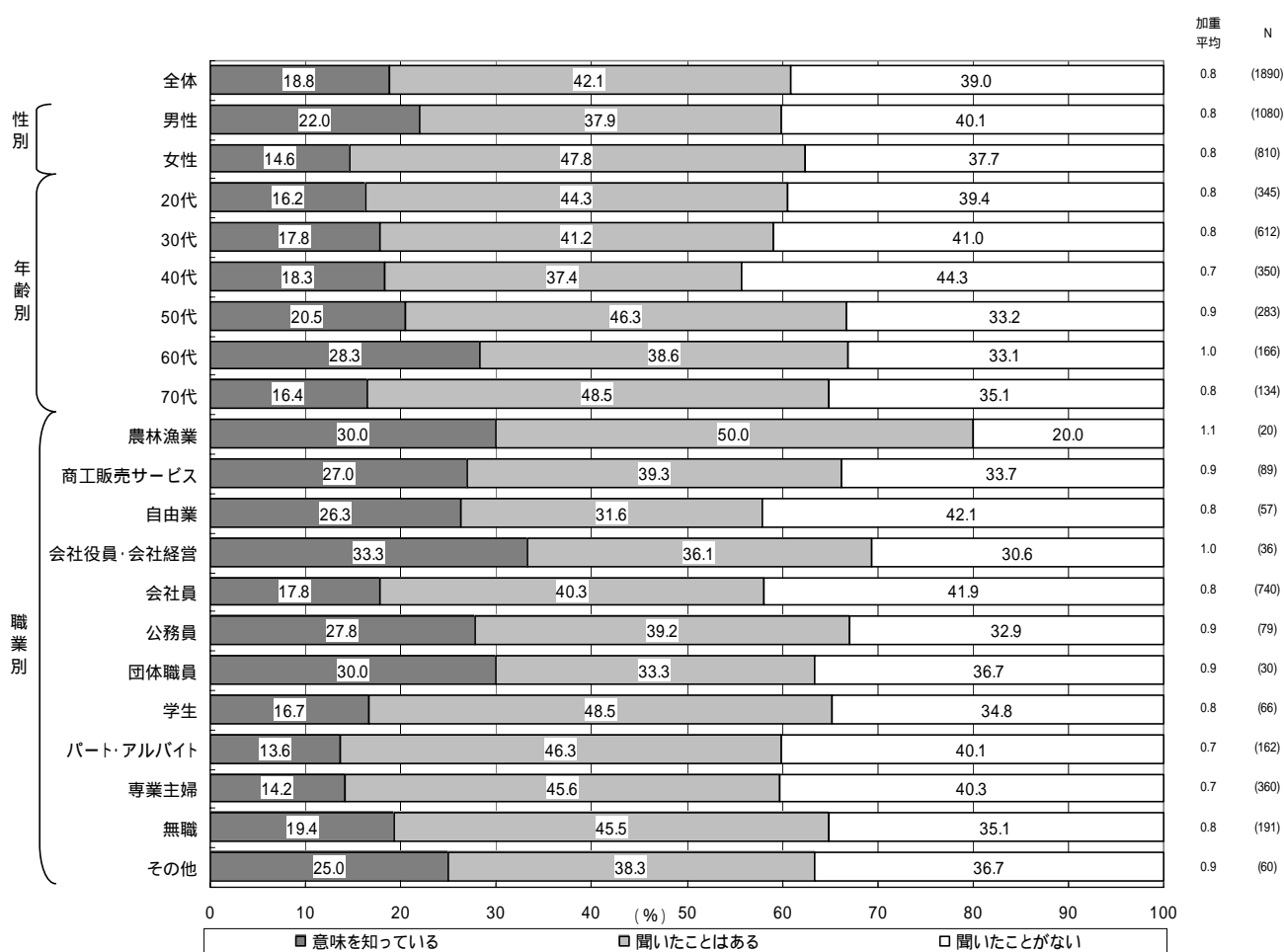
年齢別では、70代を除いて「意味を知っている」と答えた人の比率が高くなる傾向が見られ、60代において28%と最も高くなっている。

職業別では、会社役員・会社経営、団体職員で「意味を知っている」と答えた人の比率が高く(33%、30%)、自由業で「聞いたことがない」と答えた人の比率が42%と最も高くなっている。

地域別では、関東で「意味を知っている」と答えた人の比率が最も高く(22%)、中国・四国で最も低くなっている(14%)。また、近畿において「聞いたことがない」と答えた人の比率が47%と最も高くなっている。

都市規模別では、大きな差は見られない。

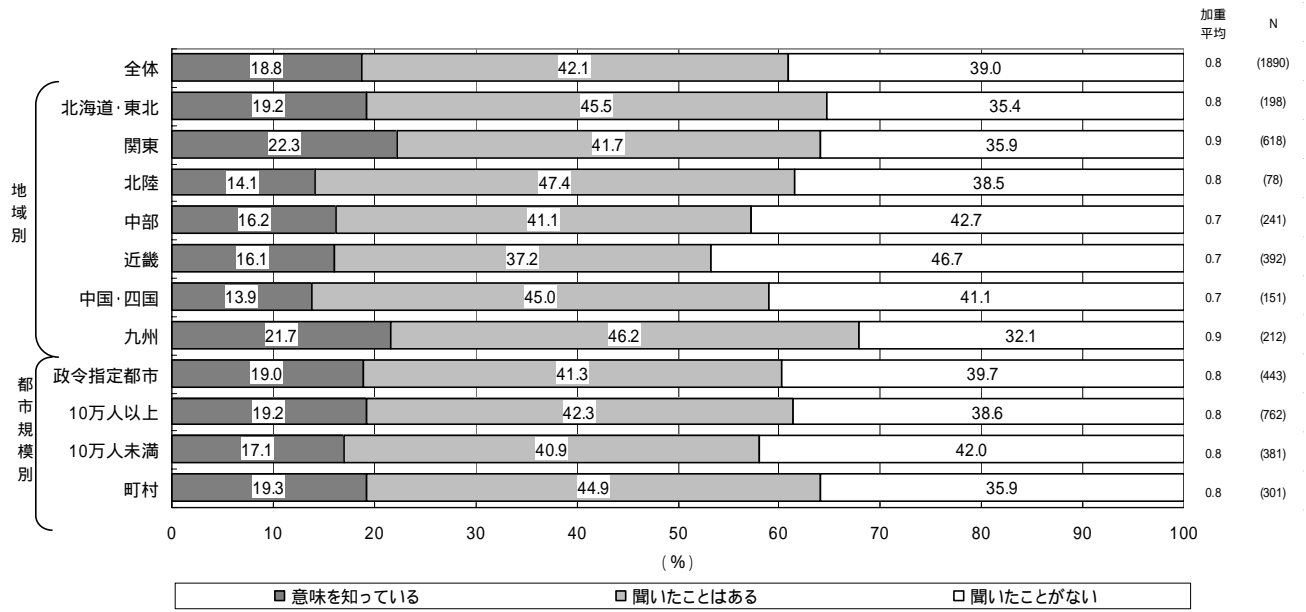
図表 2-17 用語の認知(エコツーリズム、(性別、年齢別、職業別))



注) この項の加重平均は、「意味を知っている」に2点、「聞いたことはある」に1点を与えて算出した。



図表 2-18 用語の認知(エコツーリズム、(地域別、都市規模別))



注)この項の加重平均は、「意味を知っている」に2点、「聞いたことはある」に1点を与えて算出した。